

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2012年1月号 スキー・スキー・スキー！！



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

盛岡YMCAに関わりをお持ちの皆様へ

盛岡YMCA 理事長 石渡隆司

皆様 明けましておめでとうございます。

2012年の新春に際し、新年が皆様にとって明るい希望の年となりますよう祈りあげます。

旧年は、3・11の東日本大震災・福島原発事故と続いた大災害により、被災現場のほど近くに生活・活動拠点をもつわれわれは、多くの友人・知人、仲間たちが直接・間接に大きな災難に直面し、苦悩の日々を過ごしておられるのを目の当たりにし、暗く・悲しい思いを数多く経験いたしました。今年は、ぜひとも、皆様とともに、そうした辛い思いを乗り越えられる希望に満ちて明るい日々を送れるような年でありたいと願っています。

しかしまた、他方ではこの度の災害が、被災地周辺の人々に限らず、多くの日本人に、さらには広く海外の多くの国々の人々のうちに、強い同情の念を呼び起こし、時間の経過とともに、そうした災害がもしかしたら自分たちの身近に起こったかも知れなかった出来事、すなわち自分の出来事として受け止められていることに、改めて人間の共感力のすごさに驚きを禁じ得ません。また、それら人々が、今回の災害を単に頭で理解し、同情しているというばかりでなく、被災地や被災者に対して、何らかの形で支援の輪に加わりたいという思いを寄せていただいていることに、新鮮な感動を覚えています。

21世紀の世界、また人類は、戦争の世紀でもあった20世紀の過ちと悲劇を繰り返さないためにも、国や人々が、自利にだけ偏る傾向を戒めて、他者や他国の人々との協調と、さまざまな困苦に遭遇している国や人々への共感や支援が不可欠であることを、国際化と地域性の軋轢の中から少しずつ学び始めているよう

にも感じています。

私たちも、今回のような東日本の大災害の支援活動を通して、各方面からの支援を、「世界で最初に太陽の昇る三陸沿岸」の被災地から、新しい時代の協調精神という希望の目覚めに活かしていかなければならないと考えています。

盛岡YMCAはこれまでも、未来を拓く子供たち一人一人の夢と希望を大切に、またその実現のために、個人の自立心と、仲間たちとも協調できる思いやりの精神を育むことを目標として、東北の小都市盛岡でボランティアリーダーたちとともに活動を続けてまいりました。この度の災害に際し、そうした日常的な活動が、全国の、また海外のYMCAからも認められ、各方面から支援のための人材や資金を預けられ、被害地の復旧支援や被災者ケアの、民間ボランティア・グループの中核的な役割を託されることになりました。

私たちは被災地に近い支援活動グループとして、この活動を一過性に終わらせることなく、盛岡の本拠地と共に、現地にも活動拠点を設け、被災地域に対し、また特に現地の子供たちに対し、励ましと勇気を与えられるような息の長い活動を続けていく所存です。

以上、2012年の新年に当たり盛岡YMCAの活動の基本方向のご紹介に添えて、新年所感の一端を述べさせていただきます。

皆様にはどうぞ本年も盛岡YMCAの活動に対し深いご理解を賜り、一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げて、新年のご挨拶とします。

★ エンジョイ・ジュニアスキーキャンプ ★

2011年12月26日～29日、エンジョイ・ジュニアスキーキャンプが、八幡平リゾートスキー場で行われました。

今回のスキーキャンプは、全日天候に恵まれ、大きなケガや病気もなく思う存分スキーを楽しんでくることが出来ました。毎年恒例のスキーキャンプではありますが、やはり今回のメンバーで過ごすスキーキャンプは一生に一度しかない特別なもの。部屋やスキーのグループで初めての人と出会い、様々な場面を通して関わる中で、お互いのことや自分の事について色々な発見が生まれます。それは初めての人に限らず、よく知っていると思っていた相手に対しても同じでしょう。リーダーの私も、スキーキャンプで子どもたちと過ごし、子どもたちの新しい顔や成長した部分に気づいて驚くことはたくさんありました。例えば、去年は「重たいよー」と言っただけでスキー板を放り出していた子が、最後まで自分のスキー板を抱えて歩いている姿、以前より自分の事を自分でこなし、他の仲間のことまで気遣っている姿。スキーキャンプの中でも、1日目よりも最終日のほうがたくましくなっていることも多いです。誰かと一緒に過ごしていれば、当然どこか我慢するところや譲ることもあったでしょう。けれども、同じように誰かと過ごすからこそ見つけられる楽しさだってたくさんあるはず。そんな楽しさで出来た思い出が、一緒にスキーキャンプに参加したみんなの心に残っていてくれたらいいな、と思っています。もちろん、失敗だって大切な栄養だし、自分で思う「やったー!!」って瞬間も大切に持って置いて欲しいです。なにはともあれ!!みんなと過ごしたスキーキャンプとっても楽しかったです。また遊ぼうね!!

盛岡大学社会文化学科3年 高橋みどり ダダリーダー



↑エンジョイ組は1日早くスキーを満喫☆



← 1日目の
「ナイトプログラム
から」
「からだ
ジャンケン!」



← バスで移動中。
ジュニア組ももうすぐ
合流!



↑ 食事はバイキング♪
お腹いっぱいで大満足!



↑ダダリーダーのグループ、
レッスン後に雪遊び



↑おたまリーダーのグループ



← 新聞紙くぐりの様子

4日目、朝のつどい ↓



← ごぼうリーダーの
部屋のグループ



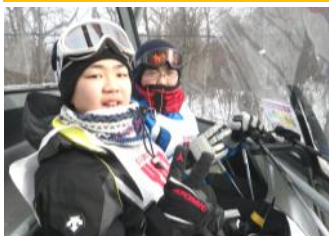
→ しろくまリーダーの
部屋のグループ



1月アドベンチャー * 日帰りスキー *

新年初アドベンチャーは八幡平リゾートスキー場へスキーに行ってきました。1月は15日

(日)、29日(日)の2回行われ、両日も、年長さんから小学6年生までの元気な子どもたちが集まりました。スキー初挑戦の子も、経験のある子もそれぞれのクラスでスキーを楽しみながら上達して帰ってくる事ができました☆また、バスの中や昼食の時にはおしゃべりやゲームで盛り上がり、とても楽しい時間を過ごせました。(家村)



盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 2012年1月報告書

○フレンドシップスキーキャンプ (於：田沢湖スキー場)

1月6日から8日まで宮古では初めてのYMCAの子どもたちのキャンププログラムを行いました。三菱商事からの支援を受けて小学生42名、中学生6名が参加し、全国のYMCAからの派遣でリーダー、スタッフ（横浜4名、大阪7名、盛岡5名）に集まっていたいただき無事に実施することができました。今回のキャンプは被災地で生活しながら様々なストレスを抱えている子どもたちがキャンプの中で「笑う」ことでリラックスし子どもたちが心を安心、安定させていくことを目的として行いました。今回は48名中42名がスキー初体験だったのですが、スキーをすることを楽しみ、全員がリフトに乗って滑ることができるようになりました。またプログラムやキャンプ生活の中で、参加者同士やリーダーと関わることで多くの「笑い」が生まれたキャンプでした。子ども一人ひとりが新しいことにチャレンジして「できた」という気持ちを感じ、仲間とのつながりを感じることができたキャンプとなりました。このことが子どもたち一人一人の自信や安心につながり、今後の生活の中で前に進む力になることを願っています。このキャンプをきっかけに子どもたちの心のケアのプログラムを継続して行いたいと考えています。

宮古ボランティアセンター 大塚英彦



← 3日目に
全員集合！



↑ 3日目グループ写真
スキー場中腹で
ほたてリーダーの
グループ

2日目
レッスン後、最後のバスをみんなで
出迎えてくれました。 ↓



→ ごぼう・うつきリーダーの
部屋での1枚



宮古での活動実績

☆受益者数 (12月末日のべ人数)
☆ボランティア数 22715人
8388人



情報コーナー

2月の予定

- ★2月5日(日)
アドベンチャー2月活動
「雪にまみれる！(雪遊び)」
(於：小鹿牧場)
- ★2月12日(日)
サンデースクール
「バレンタインパーティー」
(於：おでって5F生活アトリエ)
- ★2月18日(土)～19日(日)
スキー&雪まつり
(於：田沢湖スキー場)
- ★2月26日(日)
フットサル大会
(於：盛岡大学体育館)

●国際協力募金
一戸咲、新里ちえ子、杉下一郎、伊藤光、伊藤
恵嗣、伊藤雄基、鶴丹谷三千代、大関靖二、伊
藤克見、工藤泰、宮野桐次、千葉代子、川俣省
吾、宇土澤光里、遠藤雅之、松尾聡子、古和田
周吾、古和田龍吾、和田海璃、工藤直子、伊藤
みどり

●寄付金
東京外国語大学テニス部OB、西村隆太、布川
雅樹、中原真澄、越前谷洋子、石渡隆司

●維持会費
西村隆太、澤瀬理、庄司栄、大下龍之介、大下
恵合子、小畑孝子、金田節子、中野泰希、齋藤
凌太、永井ザビエ、重石桂司、布川雅樹、中原
真澄、越前谷洋子、小林茂元、水田賢次、井上
修三、井上優子、井上浩太郎、新里ちえ子、花
松行雄、石渡隆司

●東日本大震災被災地支援募金・献品
小林茂元、新里ちえ子、伊藤真一郎、齋藤凌
太、松尾聡子、和田海璃、タナカヒロアキ、阿
部春陽、中村恵美子、堺YMCA東三国ヶ丘小
学校放課後ルーム、社会福祉法人イエス団友愛
幼稚園

感謝

2011年度11月1日～
2012年1月30日現在
順不同・敬称略

JCCNC主催心のケア③

“Diversity Tour”（ダイバーシティ・ツアー）”

松尾 聡（白百合学園高等学校教員）



今回で私のワークショップの紹介は最後になります。今回参加していただいたことの意義を忘れず多くのことを学ばせていただいたことに心より感謝申し上げます。発表の機会があれば少しでも皆さんに拙いながらもお伝えしながら、できる限りの協力をしていくつもりでおります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今回は、これまでとは違ってツアーを紹介します。今回の滞在では有名な観光地にはいきませんでした。しかし、お世話いただいたダイアンさんならではのツアーが、このダイバーシティ・ツアーでした。

まず中心街から車で30分ほどのラテン系移民が多く生活している街を訪れました。向かいのブロックでは小学生くらいの女子のサッカーの大会が行われていました。アメリカでは、女子サッカーはとても人気があると聞きますが、とても楽しそうにボールを追いかけていました。この地区のある通りには画家の卵が多く住んでいて壁に素晴らしい絵が描かれていました。明るい色の陽気なものもあれば、移民の悲しみや宗教を題材にしたものなどどれも思わず立ち止まって見入るほどでした。

この地区は低所得者が多いということで全体的に洗練されているというよりも独特の雰囲気がありました。スペイン語の張り紙が至る所がありました。サンフランシスコは中心街がとても清潔で、市場ではオーガニックな食材が並んでいます。青空と海はまさに西海岸の象徴でありアメリカでも人気のある都市であることがよくわかります。しかし中心から少し離れると街の様子は一変します。アメリカで白人の割合が5割をきったと新聞にありました。また訪問した立派な施設には寄付をした人の名前と金額が目につくところがありました。金額は、施設によっては億単位の人もありました。アメリカでは所得で上位2割ほどが国の半分以上の収入を得ている現状と聞きますがまさに貧富格差を感じました。多くの民族を受け入れて自由の国と言われ栄華を誇ったアメリカは私にとって憧れの国でした。それが今は国内外に多くの問題を抱えている現状を垣間見た気がしました。

次に訪れたカストロ通りでは、レインボーカラーの8色の旗が通り全体に掲げられていました。私は知らなかったのですが、レインボーフラッグはLGBT（レズ、ゲイ、バイセクシャル、性同一障害）の人たちの尊厳と社会運動を象徴する旗だそうです。旗の色はLGBTコミュニティの多様性を表しています。訪問した翌日からパレードがあり、多くの人がアメリカ中から集まってくるのでした。革製品やチェーンなどの店やポスターなど特徴的な通りでした。

ダイバーシティは、“多様性”や“多文化”として雑誌等で使われています。目にしたものはまさに異文化というよりも多文化社会でした。ある意味で日本にいても考え方が異なり、文化が違うと感ずることがあります。日本にいても異文化はあり、世界的には多文化が当たり前になってきていることを思いました。有名な観光地もいいのですが、アメリカの側面を見ることができたとても興味深いツアーでした。



こほれ種⑭ 「積み重なる」時

日本基督教団内丸教会牧師（元日本YMCA同盟 主事）

中原真澄

「時は流れ去るのではない、積み重なる」・・・随分むかし、ある酒造会社の広告に使われた言葉なのですが、私の心に印象深く残っています。と言うのもその年の秋、職場旅行の際に浅間山の噴火で肌を焼かれた大木の年輪をある博物館で偶々、目にしました。残された焦げ痕を包み癒すように何十層もの年輪が重なるのを見、このコマーシャルを思い出したのです。

寒さ厳しい年の年輪は、温暖な年と比べて明らかに細く薄く、僅かな成長だったことが分かります。こうした種々の年輪の特徴を比較確定することで、その木の切り出された絶対年を判定する手法が考古学にあるそうです。まさに「時は積み重なる」故にそのような手法が可能となるのです。そして、木材としてのいのちを考えるならば、厳しい年月が生み出す目の積んだ年輪がその材に強さを増し加え、傷を抱え込むことがその材特有の特性を生み出していくのでしょ。

大震災に出遭ったあの日々が早くも「昨年」となり、今年は復興元年とも呼ばれています。震災の犠牲となられた方々は勿論、被災された方々が奪われ失ったことども・・・その膨大さを思うと、千年に一度とは言え、誰もが圧倒されてしまいます。しかしあの日々は「流れ去」ったのではなく、私たちの外にも内にも「積み重な」っていることをも覚えます。その中であの日々が、いつしか一人ひとりの強さへ変えられ、掛け替えのない個性と希望へ結実していくこと・・・それこそがモノに終わらない真の復興への礎であり新生でありましょう。全国協力の中で続けてこられた宮古その他での盛岡YMCAの働きもまた、こうした復興と新生に向けた年輪の一部となって活かされていくことが、関わった者全ての願いでありましょう。今年も更なるYMCA理解とご協力をお願いする次第です。

わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。

（ローマの信徒への手紙5章3～5節から）

～表紙の写真よ！～



ひげたまご・ひっちゃん・コンタクトリーダーのスキーグループです。

1番小さな子達のグループで、スキーの経験もまだまだ少ないですが、伸び盛りのグループです。それぞれの子のペースで、楽しくキャンプを過ごすことができました。

冬・雪・スキー・お泊まり・お友達・プログラム・・・いろいろな楽しみを感じたキャンプでした。

（12月27日 キャンプ2日目）